

5	小牧	小牧市立小牧南小学校	氏名	マツウラ エリ
				松浦 衣里

分科会番号	7	分会名	美術教育
-------	---	-----	------

研究題目

主体的に創造活動に取り組み、喜びを味わえる児童・生徒の育成
～小学4年生図画工作科「ほってすって見つけて」の実践を通して～

研究要項

1 主題設定の理由

平成29年度に告示された学習指導要領では、図画工作科の目標及び内容として「①対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。」「②造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。」「③つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う」と書かれている。「思考力、判断力、表現力等」を働かせ、表したいことを考え、創造的な活動を楽しみながら技能面を育成することが重要であるといえる。

本学級の児童は、図画工作科の学習には楽しく取り組むものの、技能面において自信をもてず、友達に作品を見せることに消極的であった。本研究では、技能面の育成を丁寧に行うことで、初めての版画制作に主体的に取り組み、友達との対話を通して作品のよさに気づき、つくりだす喜びを味わってほしいと考えた。制作過程を学級全体で共有し、繰り返し作品に向き合う機会を設けることで、制作途中でも自他の作品のよさを見つけられるようにしたいと願い、本研究を計画した。

2 目指す児童像

- ① 主体的に創造活動に取り組む児童
- ② 創造活動の喜びを味わうことのできる児童

仮説 I

基本的な技法や知識を身につけ、試行錯誤できる手段を活用すれば、主体的に創造活動に取り組むだろう。

手立てA 写真を使った彫り計画

- ・ タブレット端末を使って、自分が表現したい動物の写真を見て、彫り方の計画を立てさせる。タブレット端末を使うことで、写真をコピーし、試行錯誤が簡単にできるようにする。
- ・ 実際に板を彫る前に彫りの計画を立てる。また、グループの友達とアドバイスし合うことで、自信をもって作品の制作に取りかかることができるようにする。

手立てB ミニ版画板での練習・試し彫り

- ・ 初めての彫刻刀を扱うため、「三角刀」「丸刀」「小丸刀」を使って、練習をさせる。安全な使い方を確認し、好きな模様や絵を彫ることで、いろいろな彫り方や彫り跡があることに気づかせる。
- ・ 作品制作の際に、ミニ版画板を机の上に置き、練習した彫り跡を確認したり、再び、彫りの練習ができるようにしたりする。

手立てC フロッタージュでの彫り跡の確認

- ・ 実際に刷る前に、フロッタージュで、彫り跡を確認させる。まだ、版が完成していなくても、一部だけでも、試行錯誤できるようにする。
- ・ 印刷後の作品のイメージをつかませる。

仮説Ⅱ

自分の考えを書いて記録し、ふり返ることや友達の意見を聴くことで、自分の作品づくりの方向性を明確にすれば、創造活動の喜びを味わうことができるだろう。

手立てD タブレット端末を使った作品の記録とふり返りの蓄積

- ・ タブレット端末で作品を記録し、毎時間、制作をふり返らせる。写真を見ながらふり返りを行うことで、自分の作品のよいところを見つけたり、もっとよくしたいという意欲をもったりすることができるようにする。

手立てE 作品鑑賞会

- ・ 中間作品鑑賞会では、試し刷りをし、刷ったときの作品をイメージさせる。自分や友達の刷った作品を見て多様な表現方法を知ること、自分の作品に自信をもったり、刺激を受けたりすることができるようにする。さらに、最終作品鑑賞会では、完成した作品を数多く見て自分の作品と比較することで、自他の作品のよさを見つけることができるようにする。

3 研究の実践

(1) 単元について

- 1 単元 「ほってすって見つけて」(4年生 30名)
- 2 単元観

本教材は、彫刻刀の使い方に慣れ、彫ったり刷ったりして、できた線や形の感じから表したいことを見つけ、工夫して版木に表す力を育てる教材である。また、彫りや刷りの活動から木版画の特徴を知り、彫刻刀による様々な表現に気づくことができる教材である。作品を彫り進めながら、自分の表したい彫り方を考えたり、実際に彫ったりすることで、様々な表現方法を味わいながら広げていくことができる。

本学級の児童は、2学期に初めて彫刻刀を使い、安全な使い方を学んだり、様々な彫り方を練習したりすることができた。しかし、自分の表現したい作品に合わせた彫り方で作品を制作することは初めてで、どの彫り方がよいのか戸惑うことが予想される。

本単元では、身近な動物や図鑑で調べた動物をモチーフとし、自分の表現したいことに合わせた彫り方で作品を制作する。児童は1学期に理科の「動物のからだのつくりと運動」の学習で人や動物の骨と筋肉の動きを学んでいる。骨や筋肉の動きから、動物の毛並みや動きを考え、それを表現するために、彫刻刀の彫り跡の特徴を生かして制作をさせたい。その中で、彫刻刀を初めて使った際に彫った板の彫り跡を見ることで、制作の手がかりになるようにしたい。また、実際に彫る前に、彫り方の計画を考えさせることで、制作を苦手とする児童にも自信をもたせてから制作に取り組ませたい。

(2) 目標

- ① 動物の動きや毛並みを考えた彫りや刷りを通して、形そのものや、形の組合せによる感じなどが分かる。 (知識)
- ② 彫刻刀の扱いを練習し、表現したいことに合わせた彫り方や刷り方などを試しながら工夫して表す。 (技能)

- ③ 彫刻刀で板を彫って感じたことや、生活や学習の中で感じたことから、表したいことを見つけ、形や色などを生かしながら、どのように表すかについて考える。(発想・構想)
- ④ 進んで彫り方を試したり、刷って確かめたりしながら版に表す学習活動を通して、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。(学びに向かう力、人間性等)

(3) 指導計画 (13時間完了)

		指導計画	単元	評価基準
第1次	第1・2時	彫刻刀の安全な扱い方を知り、板に様々な線や形を彫る。	B	○ 彫刻刀を適切に扱うことができる。 ○ 彫刻刀と使って彫り方を確かめたり、彫り跡を確認したりすることができる。 (観察・ふり返し)
第2次	第1・2時	形の感じ、形の組み合わせによる感じなどを基に、自分のイメージをもちながら、板に表したいことを考える。	A	○ 動物の動きや表情を意識して、版に表したいことを考えることができる。 (写真・観察)
第3次	第1時	表したいことを考えて、計画を立てる。	A	○ 表したいことをイメージしながら、彫刻刀で版木を彫る計画を練ることができる。 (写真・発言・観察)
	第2時	計画を推敲し、イメージに合うように版木を彫る。	B D	○ 表したいことをイメージしながら計画をし、彫刻刀で版木を彫ることができる。 (ふり返し・作品)
	第3・4時	イメージに合うように版木をさらに彫る。	B C D	○ 表したいことをイメージしながら、さらに作品を彫ることができる。 (ふり返し・作品)
	第5・6時	彫った版木を刷る。 中間作品鑑賞会をした後、さらに彫り足すなどして表現を深める。	D E	○ さらに彫り進めたいところを考え、版木を彫ることができる。 (ふり返し・作品)
	第7・8時	完成した版木を刷る。	D E	○ 刷った後に、表したい感じになっているか確かめることができる。 (ふり返し・作品)
第4次	第1時	友達と作品の面白さやよさについて伝え合う。	D E	○ 自分や友達の仕事のよさを見つけ、伝え合うことができる。 (鑑賞カード)

(4) 研究の実際

第1次第1・2時：彫刻刀の安全な扱い方を知り、板に様々な線や形を彫る。



【写真①】

彫刻刀を初めて扱うため、安全指導を中心に、彫刻刀の取り扱いを説明した。その後、直線や円など、様々な線を丸刀、三角刀でそれぞれ彫らせ、太さや形などの彫り跡の違いを確かめさせた。(写真①②) また、何度も彫ることにより、彫刻刀の扱いに慣れることができた。(手立てB)



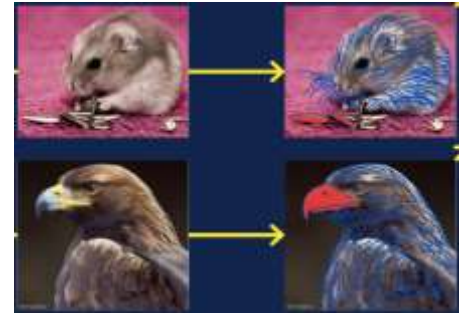
【写真②】

第2次第1・2時：自分のイメージをもちながら、板に表したいことを考える。

まず、版画にする動物を決め、写真をインターネットなどで探した。選んだ写真は、版に写すときに大きくなるようにトリミングや拡大をした。版画の表現には、毛並みが分かることが重要であると意識させることで、画面いっぱい、動物が大きく映った写真を選ぶことができた。(手立てA)

第3次第1時：表したいことを考えて、計画を立てる。

次に、彫刻刀でどのように彫るのかの計画を立てた。(手立てA) タブレット端末で、写真の上に、彫り進める線を描くことで、迷い無く版木を彫れるようにした。この際、丸刀で彫る線は赤色、三角刀で彫る線は青色を使って描かせた(写真③)



【写真③】

第3次第2～4時：計画を推敲し、イメージに合うように版木を彫る。



【写真④】

表したいことに合わせて、作品をどう彫るとよいかグループで話し合った。(写真④) 図工が苦手な児童や、彫り方が分からず困っている児童も、友達にアドバイスをもらうことで、計画を立てることができた。

計画を立てた後に、各自で版画を彫り始めた。計画を立てたことで、彫り方に迷う児童はおらず、集中して制作に取り組む様子が見られた。机にはミニ版画板を置き、彫り跡を確認できるようにしたことで(写真⑤)、安心して制作に取りかかることができた。(手立てB)



【写真⑤】

彫刻刀を使って制作する際には、動物の毛並みを意識して彫るように指導した。机の上にタブレットを置き、彫り方の計画がいつでも確認できるようにしている児童も見られた。(写真⑥)



【写真⑥】

実際に刷る前に、フロッタージュで、彫り跡を確認させた。(写真⑦) 版が完成していなくても、一部だけでも、試行錯誤できるので、「もっと多く線を彫った方がいいな」「ここは彫りが浅いから深くまで彫ろう」など、作品をもっとよくしようと考え、再度、彫り進めていた。(手立てC)



【写真⑦】



い部分や困っていることを表現することができた。(写真⑧)

【写真⑧】

第3次第5・6時：試し刷りと中間作品鑑賞会・中間ふり返りを行い、さらに版木を彫る。

版を彫った後は、試し刷りをした。初めて木版画を刷る児童は、わくわくした様子であった。刷ってみると、現状で満足している児童もいるが、予想よりも彫りが浅かったり、彫る量が少なかったりしたことに気づいた児童が多くいた。

中間作品鑑賞会では、グループの友達と版画を見合い、困っていることを相談したり、アドバイスをし合ったりしながら、さらに彫りたいところを考えた。(写真⑨)(手立てE)

中間作品鑑賞会の後は、自分が1回目に刷った作品を見ながら、彫りの浅いところや彫りの量が少な

いところを中心に、さらに彫り進めた。(写真⑩)

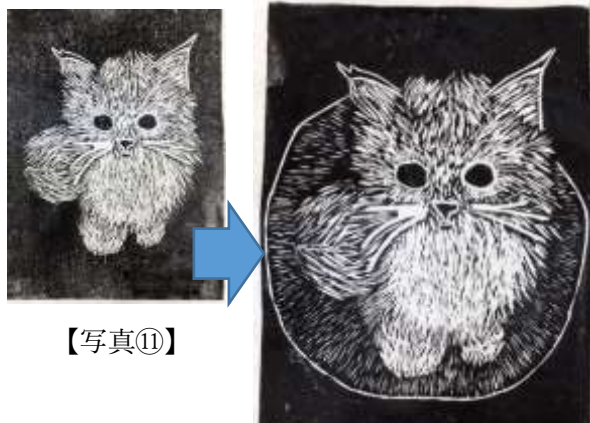


【写真⑨】



【写真⑩】

第3次第7・8時：完成した版木を刷る。



【写真⑪】

完成した版木を刷った。1回目に刷った時より、インクの乗せ方や量を調整しながら刷ることができた。何人もの児童が、「1回目よりも、きれいに刷ることができた。」というふり返りを書いていた。(手立てD) また、試し刷りの際に背景に注目し、「背景が真っ黒だから、猫のうしろを彫りたいです。」とふり返り、背景を加え、彫り進めたことにより、作品の雰囲気が変わり、満足できる作品ができたという児童もいた。(写真⑪)

第4次第1時：友達と作品の面白さやよさについて伝え合う。

自分の作品は、時系列ごとに写真を繋げ、一覧にして見られるようにした。(写真⑫) (手立てD)



【写真⑫】

完成した作品は、廊下に掲示をした。学年全員の作品を貼り出すことで、他のクラスの児童の作品のよさも見つけることができた。(写真⑬) 作品鑑賞の際は、友達作品を写真に撮り、タブレット端末で鑑賞カードを書いて共有し、誰でも見られるようにした。(手立てE)



【写真⑬】

4 研究の成果

仮説Ⅰ 基本的な技法や知識を身につけ、試行錯誤できる手段を活用すれば、主体的に創造活動に取り組むだろう。

手立てAでは、写真を活用しながら計画を綿密に立てたことで、安心して版画を彫り進めることができた。手立てBでは、繰り返し練習をしたり、手元に練習板を置いたりすることで、様々な彫り方の試行錯誤をしたり、必要なときに、必要な彫り跡を確認したりすることができた。作品を彫り始めることに不安を抱き、消極的な様子だった児童も、まずは試し彫りをすればよいと分かり、教師の声かけなしでも手を動かすことができた。手立てCでは、インクを準備しなくても自分の作品の完成度が分かるので、どれくらい彫れたかの指標となった。積極的に、彫り跡を確認している児童も多数いた。

初めての版画作品であっても主体的に取り組む姿が多く見られた。これらのことから、仮説Ⅰについての手立ては有効だったと考えられる。

仮説Ⅱ 自分の考えを書いて記録し、振り返ることや友達の意見を聴くことで、自分の作品づくりの方向性を明確にすれば、創造活動の喜びを味わうことができるだろう。

手立てDでは、作品を写真と文章で毎時間記録させることで、児童の進捗や作品への向き合い方を教師が確認することができた。また、ロイロノートの共有機能を使って、振り返りをクラス全体で共有することで、友達の作品の工夫やよさを発見できた。さらに、見つけた友達の作品のよさを自分の作品に生かすことができる児童もいた。手立てEでは、ロイロノート上での振り返りではなく、作品についてグループの友達と話をすることで、自分の作品への思いを明確にすることができた。作品づくりに困っている児童の中には、友達からアドバイスをもらうことにより、新たな発想を得られた児童も見られた。児童自身も、自分の作品の変化を目で見て実感し、それまでの努力や工夫について見返すことで、次回以降もよりよい作品をつくらうという意欲をもつことができた。

自分の作品のよさを多く見つけたり、身についた技能を生かして作品を制作したりすることで、創造活動の喜びを味わわせることができた。これらのことから、仮説Ⅱについての手立てが有効だったと考えられる。

5 今後の課題

今後の課題としては、ミニ版画板で十分に練習をしてから作品作りに取りかかったため、時間がかかったことである。初めての版画であるため、彫刻刀の使い方など習熟してから作品を制作させた。その反面、作品の構想から完成までに、事前学習や練習、理科の学習での動物の骨格調べ等を含め15時間ほどかかってしまったので、技能の向上を図りつつ、時間の短縮ができる手立てを追求していきたい。

また、今まで、図画工作科の「絵に表す学習」等では、具体物を表現する際に輪郭を描き、その中に色を塗ることを行ってきた。今回は毛並みを意識して下描きを描かせたが、輪郭を彫ってしまい、毛並みを十分に表現できなかった児童もいた。今後は、毛並みを意識して下描きを描くことや、今まで絵を描いていた時の輪郭との違いを考えて、彫刻刀で彫ることを意識させたい。

本研究で、作品についての振り返りを蓄積したり、友達とアドバイスをし合ったりしたことで、自他の作品のよさを知ることができた。今後も、様々な面から手立てを考え、試行錯誤することで自分の思いを表現できる喜びを、他の単元や他教科の学習にも広げていきたい。